

教育研究家

山村裕志

Hiroshi Yamamura

# 稼ぐ男に 育てる、 たった 6つの習慣

10歳までに  
しつけておけば  
男の子は  
ぐんぐん伸びる!



# 稼ぐ男に 育てる、 たった 6つの習慣

常州大学図書館  
藏书章

10歳までに  
身につけておけば  
男の子は  
ぐんぐん伸びる!



教育研究家  
**山村裕志**  
Hiroshi Yamamura

Gakken



## 稼ぐ男に育てる、たった6つの習慣

2012年12月11日 第1刷発行

2013年4月12日 第2刷発行

著者 山村裕志

発行人 脇谷典利

編集人 土屋俊介

編集長 遠藤励起

発行所 株式会社学研パブリッシング  
〒141-8412 東京都品川区西五反田2-11-8

発売元 株式会社学研マーケティング  
〒141-8415 東京都品川区西五反田2-11-8

印刷所 中央精版印刷株式会社

この本に関する各種のお問い合わせ先

- 電話の場合、編集内容については、☎03-6431-1473(編集部直通)
- 在庫・不良品(落丁・乱丁)については、☎03-6431-1250(販売部直通)
- 学研商品に関するお問い合わせは、☎03-6431-1002(学研お客様センター)
- 文書の場合、〒141-8418 東京都品川区西五反田2-11-8  
学研お客様センター「稼ぐ男に育てる、たった6つの習慣」係

© Hiroshi Yamamura 2012 Printed in Japan

本書の無断転載、複製、複写(コピー)、翻訳を禁じます。

本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用であっても、著作権法上、認められておりません。複写(コピー)をご希望の場合は、下記までご連絡ください。

日本複製権センター <http://www.jirc.or.jp> E-mail: [jirc\\_info@jirc.or.jp](mailto:jirc_info@jirc.or.jp) ☎03-3401-2382  
図(日本複製権センター委託出版物)

学研の書籍・雑誌についての新刊情報・詳細情報は、下記をご覧ください。

学研出版サイト <http://hongakken.jp/>

稼ぐ男に育てる、たった6つの習慣●もくじ

はじめに——あなたの息子を、稼ぐ男に育てる6つの「力」……003

ハンカチ・ティッシュを

持たせるだけで、成績が上がる！

……019

「段取り力」を身につける第1の習慣

たったこれだけで10年後に大きな差になる、かんたんなこと……020

ティッシュを持てば成績が上がる？……024

「ハンカチ・ティッシュ持った？」が、段取りを身につける基本の「き」……028  
忘れ物が多い子は勉強ができない？……032

段取り力を身につけるちよつとしたノウハウ……036

予習は「準備する習慣」をつくる……040

机の上には、  
何も置かない

「整理整頓力」を養う第2の習慣

……  
045

よい習慣づくりは5Sから……046

「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躰しむ」……050

机の上を見れば、能力も学力も全部わかる……054

机の上には、何もないのであたり前……058

カバンの中は、その子そのもの……062

やりたくないことから、  
まず終わらせる

「タイムマネジメント力」を磨く第3の習慣

……  
067

できる子は先取り体質、そうでない子は後回し体質……068

「3か月もある」と「3か月しかない」子の違い……072

計画は1週間単位で立てる習慣をつける……076

やりたいことより、やるべきことができる子にする……080

子どものころから時間意識のある子が伸びる……084

## 自分で目標を決め、

それを必ず成し遂げる……089

「忍耐力」を鍛える第4の習慣

反復練習こそ、最強の勉強法……090

目標は自分で決めさせ、結果に妥協させない……094

その習慣が、あなたの息子を「オレ様」化させる……098

プロセスをたいせつにすると結果がついてくる……102

イヤなことこそがんばれる子に！……106

## 知識よりも

自ら学ぶことを学ぶ……111

継続力をつくる第5の習慣

ハンコ一突きちんと押せない人に、ロクな仕事はできない……112

「まあいいや」でいいの？……116

オン・オフを上手に切り替える……120

できる子は、「魔法の杖」を自分でつくる……124

辞書を使う子は伸びる……128

英語はまだやらなくても大丈夫！……132

数字に強い子は将来仕事ができる……136

## 人の話をきちんと

### 最後まで聞いて、理解する

……141

コミュニケーション力を伸ばす第6の習慣

家庭でもホウ・レン・ソウ……142

話し上手より、聞き上手……146

「ありがとう」「ごめんなさい」があたり前にいえますか？……150

敬語はコミュニケーションの入り口……154

上手でなくても、字はていねいに……158

言い訳の多い子ほど、全力を出しません……162

内容を整理し、伝達できる人はコミュニケーション力が高い……166

しんぼう強く「聞く」ことが、コミュニケーション能力を伸ばす……170

## 「稼ぐ男」は 母親が作る

子どもの将来を決める母親の習慣

……  
175

稼ぐ男を育てる「親の躰」……176

ここは父親の出番です！……180

聞いてみたことありますか？「尊敬する人は誰？」……184

お父さんを尊敬できる子が伸びる……188

朝礼のすすめ……192

お祖父さんやお祖母さんとの距離感もたいせつ……196

親子は友たち？……200

おわりに——「行動習慣のかきくけこ」……205

# 稼ぐ男に 育てる、 たった 6つの習慣

10歳までに  
しつけておけば  
男の子は  
ぐんぐん伸びる!



教育研究家  
**山村裕志**  
Hiroshi Yamamura

Gakken

此为试读, 需要完整PDF请访问: [www.ertongbook.com](http://www.ertongbook.com)



## プロジェクト

あなたの息子を、稼ぐ男に育てる6つの「力」

### ●なぜ10歳までなのか？

このごろ、「10歳までに〜」とか、「10歳までの〜」といったテーマの子育て本を、よく見かけるようになりました。この「10歳」というラインは、日ごろから小学生を数多く見てきた私から見ても、妥当な線引きだと思います。

やはり、そのあたりの年齢から、特に男の子は自我が始めて、次第に母親のコントロールが効きにくくなるようです。

私は、人材派遣を行う、ある上場企業の子会社の社長や、フィリピンのセブというところで海外にある子会社の取締役などを経て、その後は最近まで9年間ほ

ど、主に小・中学生を指導する学習塾を首都圏で経営していました。

これまで、技術畑を除いて、営業職など、さまざまな職種を経験してきましたが、そんな中でも人事や総務、そして子どもたちの指導と、特に人や、人の評価にかかわる仕事に長くたずさわってきました。

そして、そこで気づいたことがあります。

それは、**社会人でも子どもでも、よい結果を出す人には、いくつかの共通する「行動習慣」がある**ということです。

「年収300万円時代をどう生き抜くか？」などといわれる昨今、会社や企業など、社会で活躍し、その結果として大きな利益を得ている（＝稼いでいる）人たちには、そうなるべくしてなるための、よい行動習慣が身についているのです。

いい換えれば、そうした、**成果の出る行動習慣が身についている子どもこそが、社会に出てからもバリバリ活躍できて、稼げる男に育つ、**ということなのです。

そして、子どもたちを見ていても、こうした習慣があるかないかは、すでに「学

力の差」という、目に見えるかたちでリアルに表れています。

こうした行動習慣の違いは学力の差だけでなく、学歴はもちろん、社会に出てからの実績など、そのまま将来にわたって影響し、いずれ収入にも大きく関係してくるのです。

ひと言で行動習慣といっても、「これはできなければいけない」というものもあれば、「できたら理想的なんだけど」といったものや、反対に、「これは絶対直さなくてはいけない」というよくないクセも含めて、いろいろあります。

さらに、「こうしなければいけないんだけど、ついついそうっていない」「わかってはいるんだけど、できていない」ということも少なくありません。

しかし、いったん身についた習慣やクセは、直そう、変えようという気持ちがあったとしても、大人になってからではそうかんたんには変えられません。持つて生まれた性格、そして育った環境から作り上げられた価値観と同じで、それを変えるというのは非常にむずかしいことです。

でも、子どものうちであれば、「習慣」は変えられます。生まれてからこの数年で身についてしまった「悪いクセ」を「よい習慣」に変えることも、「よい結果を出すための行動習慣」を身につけることもできます。だからこそ、「10歳まで」といわれるのです。

自分の息子を、しっかり仕事ができ、稼げる男に育てる――。

それは男の子を持つお母さんのたいせつな役割です。

そのために、まだ小さいうちからこころがけておきたい、とてもたいせつな習慣があります。あなたのお子さんも、今のうちからそれを身につけることで、どうかその未来を、輝かしいものにしていただきたい。そんな願いから書かれたのが本書です。

● 「とにかくこれだけは身につけておきたい！」6つの習慣

しかし、どんなにがんばっても、あらゆる状況、あらゆる場面のすべてで望ま

しい行動が取れる人など普通はいません。万能な人間などいませんから。

ですがこれまで、第一線で仕事をして成果を出しているビジネスマンや、いわゆる「デキる子ども」たちを何人も見てきて感じたのは、共通する行動習慣と、それを裏づける、「最低でもこれだけは」という6つの力のいくつかを持っているということでした。

それは――

・ **段取り力**――目の前にある、やるべきこと、しなければならぬことに対して、事前にしっかりと準備ができる力。

・ **整理整頓力**――自分の身の周りの整頓だけでなく、情報や自分の行動も管理し、整理できる力。やるべきことに優先順位をつける力。

・ **時間管理能力**――「いつまでにこれを終わらせる。そのためにはこれをいつまでにやって、そして次にはこれをいつまでにやる」という、タイムマネジメント力。

・ **忍耐力・継続力**――苦手なことや、イヤなことにもきちん取り組み、粘り強

く最後までやり遂げる力。

・「コミュニケーション力——相手のいうことをきちんと聞き、伝えるべきことを、迅速に的確に、しかるべき人に伝える力」

いわゆる「できる人」には、大人、子どもにかかわらず、こうした習慣、力、身につけているのです。

では、どうすれば小学生のうちから、そうした習慣が着実に身につくようになるのでしょうか？ 意外に思われるかもしれませんが、その答えはズバリ、「成績を上げること」なのです。

●「稼げる男」になるために必要なもの——まず「学歴」から逃げない

「成績を上げること」はイコール、学力を上げることであり、結果としてその学力に見合った中学、高校、そして大学に進んで行くこととなります。

このところの厳しい経済状況の影響から、企業では人を採用するにあたって、